

令和5年度各種委員会活動計画書

目次

1. 教育普及事業	1
2. 学術事業	2
3. CPD 事業	3
4. 資格検定事業	4
5. 学術調査研究事業	5
6. 出版物発行事業	17
7. 規格制定事業	18
8. 表彰事業	21
9. 法人運営	22

1. 教育普及事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
教育普及事業委員会 小椋 大輔	5	1. 委員会が管掌する本部事業の企画ならびに運営について検討する。 2. 以下の各種事業を実施する。 初級技術者のための研修会 社員総会特別講演会 中堅技術者のための研修会 技術講演会 セミナー その他臨時の催し物 3. 初級技術者のためのステップアップ研修会と見学会については新型 コロナウイルス感染症の拡大状況及び社会状況を見ながら企画なら びに運営について検討する。

2. 学術事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学術事業委員会 委員長 小瀬 博之	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度大会（福井）を実施し、その運営に当たる。 2. 令和6年度大会（九州支部管内）の開催計画を立案し、令和7年度大会の会期・開催地を内定する。 3. スチューデントフォーラムを管掌する。 4. 第56回空気調和・冷凍連合講演会（東京）を共催する。〔幹事学会：日本機械学会〕 5. 第35回環境工学連合講演会（主催：日本学術会議）の運営協力ならびに実行委員会との連携を図る。また、環境工学連合講演会を共催する。 6. 委員会関連シンポジウムの開催計画を審議、承認を行う。 7. 学術理事が管掌する事業を実施する。

3. CPD事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
CPD事業委員会 清田 修	3	下記の事項について協議する。 1. CPDコンテンツ提供並びに参加者へのサービス充実に関する事項 2. 履歴登録内容の審査に関する事項 3. 企業内研修・OJT等の審査に関する事項 4. 証明書発行業務に関する事項 5. 年次報告書、計画書、委員候補者名簿、予算に関する事項 6. 所属する協議会等の運営に関する事項 7. その他必要とする事項

4. 資格検定事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事 業 内 容
設備士資格検定委員会 〇〇〇〇	38	令和5年度（第68次）設備士資格検定試験を実施するにあたり、試験問題の作成および試験運営について審議し実施する。 空調部門および衛生部門を全国9都市（東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・金沢・広島・福岡・那覇）において実施する予定である。

5. 学術調査研究事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学術委員会 〇〇 〇〇	2	<p>下記の事項について協議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術事業の統括に関する事項 2. 学術調査研究に関する事項 3. 国際交流事業（ASHRAE, CIBW062, REHVA, ISHRAE等）に関する事項 4. 公募型研究に関する事項 5. 戦略的研究に関する事項 6. 学術理事管掌委員会の調整に関する事項 7. 委員会年次報告、計画、予算、委員候補者に関する事項 8. 関連学協会等との連携ならびに行事に関する事項 9. 関係理事との連携に関する事項
研究委員会 田中 英紀	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常設委員会に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学術委員会からの指示事項の調整 2) 委員会成果報告書の提出等の調整 3) 令和5年度年次報告書および令和6年度計画書、予算、委員候補の審議 4) 各表彰の推薦（功績賞、篠原記念賞、関連団体からの依頼） 5) 成果報告書のレポート番号付番 2. 研究助成候補者の推薦に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 関係団体からの研究助成推薦依頼に関する検討 3. 国際交流に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際交流視察団（ASHRAE冬季大会）を企画立案する。 2) CIB W062シンポジウムを支援する。 3) ASHRAE等との交流と協力を強化する。（Japan Seminar、冬季大会での会談） 4) その他、国際交流等の関連事項を検討する。 4. 国際名誉員推薦に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際名誉員の候補者について検討し、理事会に提案する。 2) 国際名誉員が認証式（社員総会）に出席（来日）する場合の対応を行う。 3) 必要に応じて受賞者の講演会を企画する。 5. 会員・情報理事に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 会員・情報理事から海外の国際会議に参加する会員からの申請内容について審査依頼があった場合、当委員会が内容を審査し、会員・情報理事に結果を報告する。
空気調和設備委員会 永田 明寛	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会への付託事項とその方向性を確認する 2. 各小委員会の運営・活動・その他諸問題について、協議・検討を行う 3. シンポジウムを企画・立案する 4. 各小委員会の令和5年度事業計画・予算を検討する
カーボンニュートラルのためのZEB評価手法検討小委員会 丹羽 英治	6	<p>「2050年カーボンニュートラル社会実現」への貢献を目的とし、カーボンニュートラル実現のための評価・計画手法の検討を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カーボンニュートラル化に関する動向 2. カーボンニュートラル実現の評価手法 3. カーボンニュートラル実現の計画手法 4. カーボンニュートラル実現可能性検討 5. カーボンニュートラルへの取組み事例

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
熱負荷・熱環境シミュレーション法小委員会 郡 公子	8	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実務・研究における熱負荷・熱環境シミュレーションソフトウェアの利用・開発事例の調査 2. 熱負荷・熱環境シミュレーションのための計算法・データの調査 3. コンポーネントプログラムの開発と解説書作成
空気調和システムの設計・制御適正化手法検討小委員会 田中 英紀	5	<p>【初年度】</p> <p>近年の再生可能エネルギー利用システム、新提案の空調方式、複数の空調機方式の複合システム、新制御システムなどに関する調査を行い、検討対象システムを特定する。また、最適化手法を用いて検討する項目を抽出する。</p> <p>【2年度】</p> <p>ピーク・オフピーク時あるいは期間的な運転データをもとに、性能改善のための課題を抽出する。この課題に対し、運転改善に向けた試験運転やシステムシミュレーション検討を行い、システム設計・制御手法の適正化に関する情報を整理する。</p> <p>【3年度】</p> <p>対象システムについて、さらに新たな制御手法なども考慮して、システムの設計・制御に対する適正化手法を整理し、計画・設計手法について取りまとめる。</p>
パーソナル空調普及展開検討小委員会 中野 淳太	6	<p>本小委員会では、5つの柱で情報収集と議論を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居住環境ニーズの整理：働き方改革により、働く人、場所、時間帯が多様化している。これからのオフィスのあり方と居住域環境へのニーズに関する情報を収集し、整理する。 2. 居住環境ニーズを満たすのに必要な機能の調査：1. に応えていくための要素として、温熱環境調整機能だけでなく、持ち運び性能など新たな機能が求められる可能性がある。情報を整理すると共に、関連する要素技術の動向調査を行う。 3. 直感的に使いやすいパーソナル空調のユーザーインターフェースのあり方：優れた設備も多くの方が使えるものでないと定着しない。様々なプロダクトの事例収集からパーソナル空調に適したインターフェースを模索する。 4. 数値化に限定しないパーソナル空調の利点の評価手法：文献調査やヒアリングから、これまでの手法では評価できなかった利点を明らかにし、その評価を試みる。 5. 利用者に対する情報提供のあり方の検討：多くの選択肢から利用者が望む解答を導き出すには、環境やパーソナル機器に関する適切な情報提供が重要と考えられる。必要な情報とその提供方法を検討する。本年度はこれらのトピックに関する基礎的な情報収集と議論を行う。
気流を軸とした建築環境と設備検討小委員会 桃井 良尚	3	<p>気流を中心に委員の関係した建築における室内気流と室内環境の実態、設備技術の活用状況に関して文献調査・実地調査及びヒアリング等を行い、室内気流に起因する風速・温度・湿度・空気質等の室内環境分布について委員の中で議論を深めるとともに、課題や問題点についてとりまとめる。また、空調の吹出し・吸込み気流による空気分配の観点から設計目標と空調換気方式の分類を行う。これらの結果を踏まえ、次年度に実施予定の設備技術者の意識や運用実態についてアンケート調査の準備を行う。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
エネルギー負荷原単位 検討小委員会 山川 智	4	<p>空調熱負荷や電力負荷等のエネルギー負荷は、近年のLED照明や省エネタイプのPC等の普及、地球温暖化防止への意識の高まり等により変動しており、特に2020年以降、感染症予防のための運用変更の影響を受けていると考えられる。</p> <p>そこで、エネルギー負荷原単位の見直しに向け、以下の通り、既往原単位の調査や原単位の構成の検討、建築物のエネルギーシステム負荷の実態調査を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エネルギーシステム原単位に関する情報収集としての「既往原単位の調査」と「文献/類似調査/類似研究の調査」 2. 原単位の使用方法と入手可能データに基づく「原単位の構成の検討」 3. 地域冷暖房地区内の建築物を中心とした「エネルギーシステム負荷の実態調査」
給排水衛生設備委員会 稲田 朝夫	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の研究テーマと調査の運営方法について、審議検討する。 2. 各小委員会の令和4年度の計画と予算について、検討して管掌する。 3. 小委員会の成果報告書をレビューする。 4. 小委員会の成果が、本学会の各種出版物等の内容に影響する部分を明らかにするとともに、関連する委員会に報告する。 5. シンポジウムの企画立案を行う。 6. 本学会の功績賞・篠原記念賞の候補者を推薦する。
給水給湯設備のデータ 整備小委員会 光永 威彦	6	<p>令和5年度は、令和4年度に引き続き、下記の事項を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設計用単位給水量で対象外とされる水使用行為の算定法の整理 2. 上水・雑用水や給水・給湯の比率に関する知見を整理・更新の検討 3. 設計用単位給水量として設計資料に記載のない建物用途(特別養護老人ホームなど)の追加検討 4. 諸外国の負荷算定法に関する研究動向の把握 5. 動的給水給湯負荷算定法の実務設計での活用方法の検討
衛生器具のユニバーサル デザイン標準化検討 小委員会 豊貞 佳奈子	5	<p>初年度(令和5年度)は以下の活動を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者対象の、衛生器具の使い方、困りごと、加齢による使い方変化に関するアンケート調査結果の再考察 2. 身体障害者ヒアリング結果と高齢者訪問調査結果の解析と最適水まわり空間寸法・仕様の検討 3. 訪問追加調査の実施 4. 住宅会社等の住宅標準プランにおける水まわり空間寸法の確認
給排水衛生設備の カーボンニュートラル 調査小委員会 西川 豊宏	6	<p>初年度：本学会における給排水衛生設備のカーボンニュートラルに係る過去の研究実績や活動経緯を調査し、課題共有の他、下記事項について取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会活動方針の共有、 2. 既往研究調査と研究課題の抽出、 3. 降水特性の変化と雨水流出抑制と雨水貯留槽の容量最適化に関する検証、 4. 給排水由来の環境負荷把握 <p>2年度：初年度の調査結果を取りまとめ、研究成果を公表するとともに、研究課題としての発展性について論議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 初年度研究成果の公表(大会口頭論文等)、 <p>⑥報告書の作成、</p> <p>⑦・研究方針の協議(新規委員会立ち上げの検討)</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
給排水設備設計見直 小委員会 中島 一義	5	<p>小委員会設置目的を達成するために下記の事項を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 給排水設備負荷計算法の給排水設計法検討小委員会（～2023年3月）の給排水負荷計算法の成果について、さらに完成度を高める。 上記 1. について、実測値との比較・計算例での試算などを行う。 給排水設備負荷計算法の給排水設計法検討小委員会（～2023年3月）のSHASE206技術要項の性能規定化の成果について、さらに議論を継続する。
排水通気システム設計 及び評価方法の検討 小委員会 本郷 智大	6	<p>技術動向や過去の関連小委員会の成果・課題点を踏まえ、現状の設計手法や性能評価手法に関して検討を要する事項を抽出する。</p> <p>初年度の検討事項は、排水通気システムの設計及び性能評価に関する技術動向の調査を行い、潜在する検討事項も含め検討を行う。</p>
加熱直送方式検討 小委員会 小島 邦晴	5	<p>加熱直送方式の性能検証、設計法の確立を目的として、初年度となる本年度においては次の活動を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 小委員会活動方針の共有 既往研究調査と研究課題の抽出 給湯負荷の整理と、機器応答性の検証 加熱直送方式の性能検証
ビル管理システム 委員会 百田 真史	5	<p>建築物の環境とエネルギーを管理するBEMS (Building and Energy Management System)は、建築物の室内環境・快適性を維持しながらエネルギー消費量やCO2排出量削減を行うとともに、省力化・信頼性の維持等に寄与するシステムである。そこで、当常設委員会では、BEMSの計画・設計・運用・更新に係わる技術、BEMSデータの活用技術およびBEMSを取り巻く最新技術動向などについて研究を行っている。</p> <p>令和5年度は、令和3年度に設置した下記 1. の小委員会と、令和4年度に設置した下記 2. の小委員会を継続するとともに、3. の小委員会を新たに設置して、その研究内容や方向性の確認・意見交換を行う。また、将来の研究テーマに関わる情報の検討、ISOの標準化動向の情報把握などを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 建物の管理・運用におけるAI活用小委員会（主査：大岡龍三） 建物保守・管理、人間の快適性や健康性等のウェルネス、BIMと連携したデジタル社会への貢献等、より広い分野へのAIの活用方法について検討を行う。 スマートビルディングにおけるデータ活用検討小委員会（主査：西川雅弥） スマートビルディングの機能的特徴、最新動向やデータ活用の事例を調査することで、BEMSデータを中心に建物関連データの利用目的や活用方法について整理し、建物データ活用の今後のあり方について検討することを目的とする。 エミュレータによる建物運用情報技術の試験法検討小委員会（主査：富樫英介） BCPに対応する災害に強い建物を実現するために、BEMSやそこで収集されたデータを活用することにより、災害時のBEMSや建築設備のあり方を検討、提案する。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
建物の管理・運用に おけるAI活用小委員会 大岡 龍三	6	<p>初年度並びに2年度で情報収集したAI利用例よりAI活用のニーズと課題を抽出・整理し、列挙された項目を体系的に分類・整理する。それにより、AI活用の理想的な姿とは何か、それを実現・普及させるための工夫(理想的な姿から現実的な姿への変換)とは何かについて検討する。また実務家を対象としたAI活用のためマニュアルの作成も視野入れる。更に本小委員会で検討した成果を、シンポジウムを通じて広く周知普及に努める。以上の結果を統合した報告書を作成し、本小委員会の活動のまとめとする。</p>
スマートビルディングに おけるデータ活用検討 小委員会 西川 雅弥	5	<p>クラウド・AI・IoT等の情報技術の普及が急速に広がる中、建物管理においても情報技術が活用されるようになってきた。脱炭素・人口減少・DXといった社会的な課題に対して、情報技術を取り入れたスマートビルディングへの期待は大きい。そこで、本小委員会は、スマートビルディングの最新動向やその活用事例を調査することで、BEMSデータを中心に建物関連データの利用目的や活用方法について整理し、建物データ活用の今後のあり方について検討することを目的とする。一年目は、建物データの新しい活用に取り組んだ建物事例を取り上げ、機能的特徴、技術要素、BEMSシステム等について調査を行った。二年目は、初年度の調査結果をもとに、関係者へのヒアリングや事例調査を継続し、建物データ活用の体系的な整理を行っていく予定である。さらに、各種データのプラットフォームとなるクラウドBEMSに着目し、同システムの情報収集と整理を行う予定である。これら調査内容をもとに、建物データ活用の利点・課題を整理し、スマートビルディングの今後の可能性を考察する。最終年度は、引き続き情報収集を継続するとともに、小委員会の成果を取りまとめて報告書を作成する予定である。</p>
エミュレータによる 建物運用情報技術の 試験法検討小委員会 富樫 英介	4	<p>建築外の分野では第3次のニューラルネットのブームを迎え、日々、新たな情報分析手法が提案され、成果を挙げている。建築分野でも情報化は進んでおり、建物の運用にかかわる情報の蓄積は拡大し続けている。しかし、その情報の活用技術は未成熟で、何の分析もされないままに死蔵した運転データを抱えている建物は多いと推察する。この一つの原因は、新たな情報分析と運用改善手法が考案されたとしても、それを試験するためのテストベッドが無いという点にある。現実の建物の運用方法を改善していくためには、まず、仮想的な試験環境(エミュレータ)で十分に検討が重ねられ、その堅牢性が確かめられなければならない。特に近年では、執務者行動の把握や、Demand response への対応など、従来よりも動的で、きめ細やかな制御への期待が高まっている。そこで、本小委員会では、これらの新たな制御を導入した建物運用システムの試験にも対応できるエミュレータシステムを検討する。特に令和5年度は、VRFシステム、BACnet、機械学習、熱的快適性、Occupant behavior、Demand responseなど、新たなエミュレータシステムに必要な基礎的な技術について情報を収集する。</p>
コミッションング 委員会 湯澤 秀樹	5	<p>1. 小委員会活動の進捗管理と進展</p> <p>Cxの更なる普及・拡大を目指した各小委員会における以下の活動 1)～4)の進捗を管理するとともに、全小委員会の情報共有と議論を充実させることによって、各小委員会における研究活動の一層の進展を図る。また、ビル管理委員会などの関連する常設委員会との情報連携によって相乗効果を発揮させるよう努める。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
コミッショニング 委員会 (続 き)		<ol style="list-style-type: none"> 1) カーボンニュートラルに向けた既存ストックに対するCxの便益の収集・整理と普及促進策の検討・提言 2) Cxの業務効率改善に向けた収集データ処理の標準化と処理自動化の可能性検討 3) 今後本格化が予想されるMBDへのCxの適用方法の検討と、プロジェクト進捗に応じたシミュレーションの適用方法・活用方法の検討 4) ガラス・サッシ・構造部材全体を踏まえた性能評価方法の検討と外皮Cxプロセスの策定 5) BSCA Cxマニュアルの合同勉強会開催による効率的な小委員活動開始の支援 <p>2. 本委員会独自の主体的活動 シンポジウムの企画・実施、外部関連組織との連携活動などを推進する。</p> <p>特にBSCAにてCxマニュアルの改訂作業が進んでいることを踏まえ、両者の整合性がとれた模範的Cxプロセスの指針提示に向けた検討を行う。</p>
建設ストックのカーボン ニュートラルにむけた コミッショニング便益 検討小委員会 小野島 一	6	<p>初年度においては既存施設を対象とするカーボンニュートラルに向けた便益について、既存ZEBを中心とした取り組みについて現状の調査検討を行う。また、光熱費削減以外の便益についてもESG投資などの観点からヒアリング等により可能性の調査を行う。</p> <p>続いて実際の省エネ改修を念頭において、カーボンニュートラルに向けた取組の具体例を調査検討し、そこで用いられるであろうコミッショニング手法について整理し、その便益について検討する。また、その便益をアピールできる見える化手法についても検討を行う。</p> <p>最終年度においては既存ストックのカーボンニュートラルに向けたコミッショニング支援策について政府提言を行うべく、準備する。提言においてはプロジェクトに対する補助金のような直接的支援策以外に、コミッショニングされたプロジェクトが市場に評価されるようなNEBを念頭に施策の検討を行う。</p>
データ処理手順の 標準化検討小委員会 葛 隆生		<ol style="list-style-type: none"> 1. データ処理の手順は属人的であり、手順が異なることでデータ処理ツールの作成なども煩雑になっている。 2. データ前処理（フォーマット変換、データクレンジング）とその後の分析手順およびデータの確認手順について、標準的な手順を定めることで、単位換算のミスや分析データの整形におけるミスなどを減らす手法を検討する。 3. データ処理に関連するコマンド等を整理し、体系化してユーザーに情報提供を行えるようにする。 4. 標準的なデータ処理の手順についての教材開発についても検討する。
Model Based Designに 対応したコミッショ ニングプロセスのあり方 検討小委員会 宮田 征門	6	<p>MBDの動向把握とMBDによる建築設計・施工プロセスにCxを適用する際の課題整理を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. MBDに関する最新動向調査 例えば自動車産業など建築分野以外も対象としてMBDに関する最新動向調査（ヒアリング調査、文献調査）を行う。 2. MBDによる建築設計・施工プロセスに対するCxの具体化 過去に実施済みのCxの実例を取り上げて、MBDを適用した場合のCxプロセスを具体的に書き下す。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
Model Based Designに 対応したコミッション ングプロセスのあり方 検討小委員会 (続 き)		3. MBDにCxを適用させるための課題整理 MBDによる設計・施工プロセスにCxを適用するためには、現状のCxプロセスでは何が足りないか、シミュレーションの機能やシミュレーション実施者の力量として何が求められるか等について検討し、課題を整理する。
建築外皮コミッション ング普及促進検討 小委員会 高瀬 幸造	4	前身の小委員会において、国内で実施されている外皮Cxの実態について把握を行い、特に気密性能についての検討が不足していることに着目して、海外での気密性能に関する性能評価法や基準について調査を行った。今回の小委員会では、気密性能評価法や性能値について指針を検討するとともに、従来は外皮性能として定量的に評価が不十分であった熱橋や、通風・自然採光といった自然エネルギー利用可能な窓の要求性能やこれら性能の定量化手法など、幅広い観点からの外皮コミッションングプロセス策定を検討していく。 初年度は、これまで検討していた気密性能に関する情報をアップデートするとともに、国内で適用可能な性能検証方法および目標値を検討する。また、2年目には熱橋対策や自然エネルギー利用、BIPVといった多様な外皮要素技術を対象として、定量的な性能評価法の整理および目標値を検討する。最終年度には、得られた成果をもとにシンポジウムを実施し、委員会外からも広く意見を募って外皮コミッションングプロセスをまとめる。
省エネルギー委員会 岩前 篤	2	2050年カーボンニュートラルの目標を実現するためにグリーン成長戦略が策定され、住宅産業分野においてはLCCM及びZEH・ZEBの普及促進、省エネ改修の推進、高性能断熱材や高効率機器、再生可能エネルギーの導入等に関する2050年までの工程表が示された。省エネルギーはこれらを支える技術であり、本委員会では、建築・設備の省エネルギー技術について最先端の技術の情報収集、研究を行う。 管掌する住宅および非住宅の2つの研究小委員会と連携・協力しながら、以下の1.～4.をベースに活動する。 1. 新しい省エネルギー技術等のフォローアップ 2. 国内外の動向調査 3. 法改正・省エネルギー基準義務化への対応 4. 広報的活動
住宅省エネルギー技術 研究小委員会 小椋 大輔	3	1. 建築・設備の最新の省エネルギー技術の収集 2. 住み手である一般の居住者の方々への、地域事情に即した正しい情報提供 3. 住宅における新築や改修におけるエネルギー消費の実態調査 4. 省エネルギー技術指針につながる調査・研究
非住宅の設計・運用に 関する省エネルギー 研究小委員会 河路 友也	4	1. 最新技術、関連出版物の調査 2. 前年度選定した技術に関する調査と資料作成 3. 省エネルギーを目指した設計・運用・効果検証手法に関する資料作成 4. シンポジウムの開催に向けた準備
住宅設備委員会 柿沼 整三	4	住宅設備委員会は、住宅設備に関連する多くの諸問題を調査・研究し、会員は基よりエンドユーザーである一般の住まい手に対しても住宅設備に関連する安全・安心・環境配慮情報を提供する事を目的としている。 次年度は、2小委員会が継続委員会で、2小委員会が新規となる。 継続小委員会は、以下の4小委員会となる。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
住宅設備委員会 (続 き)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「災害に強い住宅・住宅設備検討」小委員会 2. 「木質バイオマス利用による地域再エネルギー消費促進検討」小委員会新規委員会として以下の2小委員会となる。 3. 「災害時のトイレ用洗浄水確保検討」小委員会 4. 「集合住宅設備のBIMガイドライン検討」小委員会 継続審議として、以下の2項目を行っている。 5. コロナ対策としての提言や活動 6. カーボンニュートラル（2050）への提案
災害に強い住宅・住宅 設備検討小委員会 川本 聖一	8	2022年度に収集された災害と住宅・住宅設備に関する資料を整理し、2023年の早い時期に報告書の完成を予定している。成果報告書のレビュースケジュールは、通常のスケジュールを予定しているが、2023年年度の活動の中心は、成果報告書の内容を基にしたシンポジウム開催とその準備活動を予定している。ちなみに成果報告書の主な内容を下記に示す。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の目的 2. 近年の災害と被災状況 3. 地域コミュニティと避難所 4. 災害時に求められる住宅と住宅設備
木質バイオマス利用による地域再エネルギー消費促進検討小委員会 浅野 良晴	6	国では2050年に脱炭素化においてネットゼロを目指すことを宣言したところである。石炭石油の化石燃料から木質バイオマスにシフトすることをめざしている。しかしながら、国産の木質チップやペレットに比べて外国産の木質バイオマスはカーボンフリーというわけにはいかない部分があり、国内のサプライチェーンと他の熱源との組み合わせを検討すべき時である。EUでは木質バイオマスが再生可能エネルギー原料として認めない方向で検討されている。国産の木質バイオマスの扱いについて本学会でも方針を示す必要がある。 この背景を踏まえて、木質バイオマスを使用した小規模熱供給の位置づけと各住宅での熱利用方法の計画・設計を扱う。カーボンフリーという面から外国産と比べて優れた国産の木質バイオマスの位置づけを明確にする。国内の建築用材でない間伐材やバイオマス用森林から排出される材をチップやペレットとして燃料に位置づけるためにトレーサビリティは重要である。空気調和・衛生工学会のエネルギー・インフラの熱源として木質バイオマスの位置づけを明確にする。木質バイオマスの熱利用やガス化発電は、再生可能エネルギー割合の明確化に結びつくものである。ネットゼロカーボン化に貢献する資料を作成することができる。 2023年度は愛媛県内子町木質バイオマス熱供給事業について見学会を実施する。
災害時のトイレ用洗浄水確保検討小委員会 木村 洋	6	令和5年度は、超高層住宅の給排水設備の特殊性を明らかにし、災害発生時に利用可能な水源と搬送方法を検討する。
集合住宅設備のBIMガイドライン検討小委員会 相曾 一浩	6	【初年度】 集合住宅におけるBIMの普及状況の調査と関係ソフトやデバイスの調査 【2年度】 BIMガイドラインの作成に必要な課題と基準などの調査、およびガイドライン案の作成。 【3年度】 ガイドライン案の作成と実態調査

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
施工・保全委員会 泉山 浩郎	4	1. 本委員会では、施工および保全業務における要素技術、プロセスの研究および標準化を行い、併せて学会の施工・保全分野に従事する会員への還元・貢献を図ることを目的として、R5年度は継続×5、新規×1の6小委員会で活動を継続する。 2. 本委員会は、下記の6小委員会の成果に向けた活動が円滑に進められるように、支援および情報提供を行う。 3. 委員は、小委員会主査及び施工・保全に深く係わりのある識者も含め13名で構成する。 ■ 委員会開催時期 第1回：2023年6月頃 第2回：2023年9月頃 第3回：2023年11月頃 第4回：2024年2月頃
実用的な取扱説明書 作成指針検討小委員会 花房 俊治	10	2020年4月～ コロナ禍の影響により活動自粛 2022年4月～ 実用的な取扱説明書作成指針の方向性や具体的な表現方法等の審議を行う。 実用的な取扱説明書作成指針ならびに作成例を策定する。 2023年4月～ 成果報告書として取り纏める。
建築設備の安全に関する リスク低減手法検討 小委員会 割石 浩幸	9	1. 空気調和・衛生工学会大会における発表論文と当小委員会の中間発表の課題内容の検討 2. 研究の目的を達成する具体的な研究項目の議論 3. 建築・設備におけるリスクの低減手法の事例を検討および解析し、それら評価手法を示すこと。 4. 工場におけるリスクに対する削減方法を解析し、リスク評価手法の提示を図ること。
工種別施工計画書作成 検討小委員会 松島 俊久	10	1. 工種別施工計画書の作成例の収集 2. 工種別施工計画書に関するアンケート調査 3. 工種別施工計画書作成方法と運用指針作成 4. モデル建物の工種別施工計画書の作成 5. 報告書のまとめ
ウィズ・ポストコロナ時代を見据えた近未来都市・施設のSBCM(スマートな事業継続マネジメント)検討小委員会 佐藤 健一	6	「実践的な近未来都市・施設のSBCM(スマートな事業継続マネジメント)検討小委員会」の検討結果を踏まえて、ウィズ・ポストコロナ時代の近未来都市・施設のSBCMを研究テーマとし、また、レジリエンスの概念を取り入れた手法についても調査、研究を行う。
清掃を考慮した排水 配管法検討小委員会 岡内 繁和	6	令和5年度は、下記の事項を行う。 配管清掃の実態を調査し、配管形状が清掃性能に与える影響を分析する。 1. 配管清掃前後に内視鏡で観察し、配管清掃の良否判定から清掃しにくい配管形状を探す。 2. 曲がりにくい高圧ホース特性と許されるエルボ・継手の相関を調査する。 3. 掃除口の配置とアクセス性を調査し、清掃性能に与える影響を評価する。 4. 清掃排除物の回収作業が容易な排水柵の形状・構造を調査する。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
持続可能な建築設備 配管の設計・施工 維持管理小委員会 田中 法幸	10	1. 初年度：研究テーマの絞り込み 1) 解説書(案)等、記載内容の検討、 2) 腐食事例の調査、 3) 防食技術の調査 2. 2年目：抽出した研究テーマの深掘り 1) 解説書(案)等の作成、 2) 上記2)、3)の継続調査 3. 3年目：成果のとりまとめ 1) 解説書や事例集の作成
地球環境委員会 村上 公哉	5	引き続き、以下の事項について検討する。 1. 地球環境委員会の活動方針について 2. 「環境配慮建築検討小委員会」の活動に関する意見交換 3. 「カーボンニュートラル技術検討小委員会」の活動に関する意見交換 また、地球環境委員会において、委員会内外の「情報交換会」の開催を継続する。
環境配慮建築検討 小委員会 岩本 静男	6	本小委員会の活動計画は、2021年度終了の環境配慮建築小委の成果を踏まえて、 1. 前年度の小委員会では扱えなかった環境配慮建築とSDGsとのかかわりを調査すること 2. 脱炭素社会推進会議、AIJ地球環境委員会技術分野WGなどと情報交換の2つを基本方針とする。 令和4年度では、SDGsに対する取り組みについて、各委員から調査報告をいただき、各種の勉強会を開催した。令和5年度では、SDGsに関する調査結果をまとめて、空気調和・衛生工学会地球環境委員会にふさわしい取り組みを模索することとする。
カーボンニュートラル 技術検討小委員会 原 英嗣	5	世界的な平均気温上昇を産業革命以前と比べて1.5℃に抑えるため、国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを目指す方針を宣言した。またその途中過程である2030年度には、2013年度比46%削減を目指している。建築物からのCO2排出量は、東日本大震災を契機に本格化した節電努力、建築物省エネ法の設立や新規建築物への省エネ手法の導入などにより、年々減少する傾向にあるが、2019年において日本全体の約3割強を占めている。その中で、建築物において空気調和設備のエネルギー消費量の占める割合は高く、2050年のカーボンニュートラルの実現において、空気調和設備の役割は大きい。 そこで本小委員会では、2050年における建築物からのCO2排出量ゼロを見据え、国内外のカーボンニュートラル政策の動向、建物の二次側と一次側（熱源、エネルギーシステム）における省エネルギー技術、ZEB化技術、再エネ利用技術、ならびに地域エネルギーシステムやエネルギーインフラ側のRE100やグリーン電力、次世代電力ネットワーク安定化技術、燃料のCO2フリー化技術など、カーボンニュートラル技術に関する開発動向や、事例調査を引き続き実施する。その上で2050年における建築物のカーボンニュートラルの可能性について議論する。
安全・防災委員会 中濱 慎司	3	当委員会の管下の設備耐震対策小委員会及び火災安全小委員会に対して、以下の活動を行う。 1. 各小委員会の研究テーマ、運営方法についての検討。 2. 各小委員会の作業進捗状況の管理、および助言。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
安全・防災委員会 (続 き)		<p>3. 当学会として調査すべき災害が発生した場合の調査目的、調査体制の提案。</p> <p>4. 他の学協会との共同作業の調整。</p> <p>5. 当学会、功績賞、技術フェローの推薦。</p> <p>各小委員会の主な活動内容は、以下。</p> <p>設備耐震：地震調査計画（案）の策定及び災害時機能継続が求められる建物の設備耐震対策の検討</p> <p>火災安全：既存不適格建築物の排煙改修手法の検討</p> <p>防災設備機器類の管理運営における課題点および対策案の検討</p>
設備耐震対策小委員会 荒井 安行	4	<p>1. 地震調査計画（案）の策定</p> <p>2. 災害拠点建物等の高い安全性と災害時機能継続性が求められる建物の設備耐震対策の検討</p> <p>3. 停電の長期化などインフラの途絶に対応した建築設備に関する検討</p>
火災安全小委員会 金谷 靖	3	<p>1. 既存不適格建築物の排煙改修手法の検討</p> <p>2. シミュレーション等を利用した排煙効果の検証</p> <p>3. 防災設備機器類の管理運営における課題点および対策案の検討</p> <p>4. 防災設備、火災事例を主とした話題提供</p>
換気設備委員会 酒井 孝司	5	<p>換気設備全般に関する常設委員会として平成22年4月より活動を開始し、本年度が6期目の2年目である。今年度からは以下の小委員会を運営する。</p> <p>1. 換気効率検討小委員会</p> <p>2. 空調・換気設備設計のためのCFD応用小委員会</p> <p>3. 次世代実用CFDパーツの公開小委員会</p> <p>4. 快適な空気質検討小委員会</p> <p>新型コロナウイルスに関する情報提供についても、随時検討、実施することとする。</p>
快適な室内空気質 検討小委員会 鍵 直樹	5	<p>前身の小委員会において整理した最新の室内空気質の知見に基づき、ZEB、ウェルネスに係る空気環境、室内空気質、環境設備について情報収集、情報共有を行う。</p> <p>さらに、快適性、生産性に関わる空気質、におい環境について、既往研究をもとに検討するとともに、ウェルネス時代に必要となる設備技術について、情報収集を行う。</p> <p>以上の知見をもとに、成果報告書の作成に向けて、成果の取りまとめを行う。</p>
換気効率検討小委員会 鳥海 吉弘	5	<p>令和4年度は主に文献調査が主体となる。空気齢から規準化居住域濃度、汚染質除去効率、排気捕集率、更には平均濃度場の形成要因の分析など、換気効率に関する指標や研究動向の変化を確認する。換気効率に関して、過去の学会内の小委員会等で検討した内容についても精査する。また、実験やCFD手法を用いた計画段階における換気設計への応用に関して議論する。</p> <p>令和5年度は、換気方式・換気効率のほか、フィルターや空気清浄機を利用した循環換気など、委員の持ち寄りで最新の事例について情報を共有する。オイルミスト、二酸化炭素、感染性粒子、臭気、揮発性有機化合物など様々な汚染質について検討を行う。局所的な換気の範囲について議論する。</p> <p>令和6年度は、それまでに検討した内容に基づき、小委員会成果報告書の作成に向けて成果を取りまとめる。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
空調・換気設備設計のためのCFD応用小委員会 小林 知広	4	<p>空調・換気設備の実務設計に焦点を当てて実務設計者に求められるCFD解析技術に関連するニーズ調査を行うとともに、日進月歩で発展するCFD解析技術に関する国際的な先端事例の調査を継続的に行う。そのため、まずは主に設備設計者に向けて設計でCFD解析を実施するにあたって困難に感じる点や取り扱いが難しい解析設定等の問題点を抽出するアンケートの作成と実施を行うこととし、その項目設定や実施方法などの詳細について検討を行なった上で実施する。また、実施した調査の結果を当該年度中に分析して結果をまとめ、当学会として学術的見地から提供すべき点を整理して必要な項目についての調査を行う。同時に、実務設計に応用可能な先端かつ高度な解析事例の収集を行い、一般的な知見としての情報提供の方法を検討する。</p> <p>令和5年度は前年度に作成・実施したCFDに関するアンケートのデータの取りまとめを行いながら当学会から発信可能な情報の検討を行うとともに、継続して先端的なCFD利用例の調査を行う。</p>
次世代実用CFDパーツの公開小委員会 河野 良坪	4	<p>モーメント法におけるモデル係数をデータベースとしてCFDパーツに実装するため、以下の検討を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 詳細CFD解析WG <p>実機のラインディフューザ等を対象に詳細CFD解析を実施し、詳細CFD解析のプロトコル検討を行うとともに、モデル係数チューニング用の吹出し気流分布のデータを取得する。</p> 2. CFDパーツ仕様検討WG <p>風速測定データ及び詳細CFD解析結果と、モーメント法適用時の簡易CFD解析結果を比較することでモーメント法におけるモデル係数を決定し、関数化（データベース化）する。</p>
国際交流空調分科会 中野 淳太	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外団体との交流の活性化 <ol style="list-style-type: none"> 1) ASHRAEについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 冬季大会視察団派遣に関する総合調整 ・ 学会賞等受賞作品をASHRAE冬季大会（Japan Seminar）で紹介する会員への支援 ・ ASHRAE大会等におけるトップ会議とAASAへの対応 2) REHVAについて <ul style="list-style-type: none"> ・ ASHRAE大会会場等におけるトップ会議への対応 ・ REHVA国際学生コンペティションへの参加支援 2. 海外交流団体情報のSHASE会員への提供
国際交流衛生分科会 西川 豊宏	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第47回CIB W062国際シンポジウム(2023年8月、ベルギー・ルーベン)の国際建築設備調査団について対応する。 2. 第48回CIB W062国際シンポジウム(2024年、未定)の国際建築設備調査団を検討する。 3. 給排水設備分野の国際名誉員の推薦を検討する。 4. その他、給排水設備の国際交流と国際貢献に関する情報を収集し、本会における活動を審議する。

6. 出版物発行事業

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
出版委員会 (未定)	5	<ol style="list-style-type: none"> 学会出版物に関する事項を審議する。 新規出版計画を審議する 既出版物の改訂、増補、絶版などの起案事項を審議する。 学会出版物の著作権に関する事項を審議する。 出版物の電子版発行に関する事項を審議する。 各小委員会および改訂小委員会の報告を受け、必要に応じて審議・決定する。
空調・衛生設備advice 編集小委員会 荒井 義人	1	<ol style="list-style-type: none"> 令和4年7月に発行した「四訂版 空調・衛生設備advice」に係る事項について、必要が生じれば委員会を開催する。
建築と設備の環境配慮 技術のすべて改訂検討 小委員会 丹羽 勝巳	3	<ol style="list-style-type: none"> 学会出版物「建築と設備の環境配慮技術のすべて 一要素技術からスマートシティまで」の改訂の可否について検討を行う。
学会誌委員会 大野 裕二	11	<ol style="list-style-type: none"> 学会誌「空気が調和・衛生工学」を、2023年4月号から2024年3月号までを刊行する。 各小委員会が企画・立案の特集および講座について検討し、掲載を決定する。 その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討する。
熱源・設備原論 小委員会 高橋 祐樹	11	<ol style="list-style-type: none"> 刊行日程に基づき、特集・講座および各種単発原稿を企画・立案し学会誌委員会へ起案する。 原稿入手後、内容確認を行い、企画趣旨に適合した内容を掲載するよう努める。 その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討する。
空調・空気環境 小委員会 日野原 昌信	11	<ol style="list-style-type: none"> 刊行日程に基づき、特集・講座および各種単発原稿を企画・立案し学会誌委員会へ起案する。 原稿入手後、内容確認を行い、企画趣旨に適合した内容を掲載するよう努める。 その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討する。
給排水衛生・水環境 小委員会 高塚 和行	11	<ol style="list-style-type: none"> 刊行日程に基づき、特集・講座および各種単発原稿を企画・立案し、学会誌委員会へ起案する。 原稿入手後、内容確認を行い、企画趣旨に適合した内容を掲載するよう努める。 その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討する。
海外文献紹介小委員会 渡辺 太郎	11	<ol style="list-style-type: none"> 学会誌「海外文献紹介」および「外国雑誌主要文献題目」欄の掲載記事を訳出する。 「海外文献紹介」欄の投稿原稿を査読する。 その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討する。
年鑑・年報検討 小委員会 木村 崇	11	<ol style="list-style-type: none"> 学会誌12月号「年報特集号」の企画・立案を行い、執筆依頼を行う。 その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討する。
論文集委員会 富樫 英介	12	<ol style="list-style-type: none"> 投稿論文の査読者の選任および査読依頼を行い、その結果を審議のうえ、論文集へ掲載する論文を決定する。 論文集の活性化について検討する。 その他、論文集刊行に伴う諸問題を検討する。

7. 規格制定事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
標準化委員会 〇〇 〇〇	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学会規格に関する事項を審議する。 2. 当該小委員会を設置し、学会規格類の改定案を審議する。 継続：建築設備用インサート改定小委員会 建築設備用ステンレス鋼鋼管のプレハブユニット改定小委員会 空調機器騒音測定方法改定小委員会 グリース阻集器改定小委員会 室内換気効率(規準化居住域濃度)の現場測定法改定小委員会 換気・空調設備の現場風量測定法改定小委員会 器具排水特性試験法改定小委員会 3. 各種学会表彰の候補業績・候補者を当該委員会に推薦する。 4. 他団体規格類に関する調査・照会事項を審議する。 5. その他関連事項を協議する。
SHASE-S 009 建築設備用インサート 改定小委員会 西田 悟	8	<p>SHASE-S 009-2004建築設備用インサートは、建築設備の機器、配管、ダクトの支持や固定において広く利用されている。</p> <p>2004年の出版から十数年が経過し、その間の法規制の改定や技術の進展に伴う改定が必要と考えられる。</p> <p>具体的には以下の項目に対して検討を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インサート施工に関する品質を確保するため手順、留意点、注意事項などの追加 2. 新しいタイプや種別に応じたインサートの仕様、適応などの追加、改定 3. 合成スラブデッキプレートの谷部使用についての検討 4. JISや関連規格、関連法令に対応した改定 <p>上記のほか、アンケート調査を実施し意見や要望を聴取したうえで、改定すべき箇所は改定を行う。</p> <p>3. について、令和2年3月～4月に性能確認実験を実施し、その内容を踏まえ改定の検討を行う。</p> <p>現在、新型コロナウイルスの影響により改定小委員会が開催できておらず、中断状態となっているが、今後開催予定としている。</p>
SHASE-S 014 建築設備用ステンレス鋼 鋼管のプレハブユニット 改定小委員会 松島 俊久	10	<p>コロナ禍において、同空間に集まって行う会合が制限されているが、当小委員会では対面の中でしか出てこない意見もあると考え、リモート開催等は見送った。令和4年度は、改定すべき部分のまとめ等、分散していても作業可能なものをまとめる作業までとなるため、会期の延長を求めた。</p> <p>【令和5年度の活動計画】</p> <p>当小委員会ではこれまでに、冷間加工の管端つば出し、バーリング及びベンダーの性能試験の実施状況を各社調査し性能試験項目の抽出と絞り込みを行った。令和5年度は、特に改定を行う冷間加工の一部について性能試験を実施し、その妥当性を確認する。併せて、腐食試験方法についても確認する。</p> <p>また、各委員から集めた最近の事故事例の結果を踏まえ、改定原案に反映させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冷間加工の性能試験の実施確認 2. 改定原案の作成（現行規格と改定規格の対比表作成） 3. レビューの実施 4. 改定最終案の作成

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
SHASE-S 114 空調機器騒音測定方法 改定小委員会 高木 正尚	3	<p>空調機器騒音測定方法改定小委員会は、SHASE-S 114-2011空調機器騒音測定方法の改定を目的とする委員会である。</p> <p>当小委員会は当初は令和2年度で活動を完了する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため委員会を開催できず、活動期間を2年間延長した。令和4年度中に改定原案を完成予定であるが、原案を標準化委員会に提出後の修正作業およびパブリックレビューに関わる作業に対応するため、さらに1年間の活動期間の延長を申請する。</p>
SHASE-S 115 室内換気効率(標準化居住域濃度)の現場測定法 改定小委員会 諏訪 好英	4	<p>本小委員会では、換気規格SHASE-S 102に定めた標準化居住域濃度の測定法を定めたSHASE-S 115-2010室内換気効率の現場測定法・同解説の見直し・改定を実施する。</p> <p>本小委員会は、本規格が改定された2017年版以後に認められた細かな記述のミスなど部分的に修正する目的で令和4年度に立ち上げたもので、当初は活動期間1年以内で終了する予定であった。</p> <p>しかし、作業に伴い当初の予測以上に大きな作業量を要する項目のあることが判明した。</p> <p>すなわち、現行規格では標準化居住域濃度の測定法として重要な「汚染質濃度の実測値から直接求める方法」が記載されておらず、その重要性から新たな章を設けて加筆すべきとの合意に至った。この作業には十分な議論を行うことが必要と考えており、1年間の期間延長が必要と判断したのでこれを申請した。</p> <p>令和4年度は新型コロナウイルス感染状況の好転が見込めない状況が続き、対面での委員会会議による審議が困難であったが、本小委員会は当初よりメールやリモート会議等で作業を進めてきたが、基本的にその方針は踏襲する。</p> <p>活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> SHASE-S 115 の修正・加筆必要内容の洗い出し・整理（継続） 新規項目「汚染質濃度の実測値から直接求める方法」の検討および原案作成 規格改定案の作成作業
SHASE-S 117 換気・空調設備の現場 風量測定法改定小委員会 田島 昌樹	6	<p>本規格が前回改定された平成29年以後の換気量測定法に関する技術的な進歩に対応する必要があるとともに、本規格を元に発行された、ISO16956 2015 Thermal performance in the built environment - Determination of air flow rate in building applications by field measuring methods についても定期見直し (SR, Systematic Review) に入り、ISOの内容と整合すること、新しい技術の紹介を行うことが今回の主な改定事項である。</p> <p>これらの状況に対応して本規格の見直し・改定を実施し、内容の充実をはかることが必要と考え、ここにSHASE-S 117換気・空調設備の現場風量測定法改定小委員会の設置を提案するものである。</p> <p>改定案の見直しを進め、パブリックレビューの後、改定規準最終案を完成させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 改定案の見直し作業 パブリックレビューの実施 改定規準最終案の作成

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
SHASE-S 217 グリース阻集器 改定小委員会 小南 和也	10	<p>新型コロナウイルスの影響により、令和4年度で実施予定の実態調査が令和5年度に亘っての実施となる見込みであり、今後の進捗状況によっては小委員会を1年延期させて頂くことも考えている。</p> <p>なお、小委員会活動は集合とWebの併用とし、月1回程度の開催を考慮しており、下記の内容について活動したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グリース阻集器の実態調査を実施し、その調査結果を分析して各食種における設計用基礎数値を整理する。 2. 現状の基礎数値と新たに調査した基礎数値を比較検討し、新たな基礎数値を改定本文に反映させる。 3. 規格本体の改定にともない解説文の検討を行い、改定原案を作成する。
SHASE-S 220 器具排水特性試験法 改定小委員会 大塚 雅之	6	<p>初年度は、現行の試験法の用語の定義、本文、解説を見直し、追記・修正する内容、項目について協議を行った。</p> <p>今年度、検討する項目およびその内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連立トイレ等の複数器具に対するqd' 値の負荷算法に関する解説内容の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・連立大便器や異種器具が設置された排水枝管等でのqd' 値の扱いと定常流量法への適用時の代表器具の数値決定法について、解説で詳述する。 2. 大容量器具排水の排水特性の試算モデル算出方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・現行試験法の付属書にあるユニットバス、在来浴槽、大型洗濯機などの器具平均排水流量の簡易測定法について、容量寸法・形状などから容易求めることができる簡易計算法を検討し、付属書の拡充を図る。 3. 衛生器具の器具排出管を考慮したqd 値とqd' 値の検証方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・衛生器具に設置される器具排出管、付属するトラップなども加味した器具平均排水流量の測定法と数値の扱いについて検討し、解説を加える。 <p>以上の内容を検討した上で、本文、解説の素案作成を行う。加えて、試験法の策定経緯、改定作業の進捗状況を国内外の学会等において情報発信して行く。</p>

8. 表彰事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
表彰運営委員会 秋元 孝之	2	各表彰制度の運営にあたり、関連事項の処理を行う。
学会賞・特別賞・ 振興賞選考委員会 秋元 孝之	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学会賞（論文賞・技術賞）表彰業績の選考を行う。 2. 特別賞十年賞、特別賞リニューアル賞表彰業績の選考を行う。 3. 振興賞表彰業績の選考を行う。 4. 功績賞表彰業績の選考を行う。 5. 上記を理事会へ報告する。
技術賞審査小委員会 非公開	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当年度学会賞技術賞（建築設備部門、技術開発部門）の募集、審査を行い、各部門および奨励賞の表彰候補業績を仮選出する。 2. 当年度振興賞技術振興賞（第1区）および振興賞住宅環境設備賞（第1区）の募集、審査を行い、表彰候補業績を仮選出する。 3. 仮選出結果を学会賞・振興賞選考委員会に報告する。
論文賞審査小委員会 樋口 祥明	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当年度学会賞論文賞（学術論文部門、技術論文部門、論説・報文部門）の審査を行い、各部門および奨励賞の表彰候補業績を仮選出する。 2. 仮選出結果を学会賞選考委員会に報告する。
特別賞審査小委員会 非公開	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当年度特別賞「十年賞」特別賞「リニューアル賞」の応募、審査を行い表彰候補業績を仮選出する。 2. 仮選出結果を特別賞選考委員会に報告する。
篠原記念賞推薦委員会 〇〇 〇〇	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当年度篠原記念賞表彰業績および同奨励賞の応募、推薦業績につき審査を行い、表彰業績を選出する。 2. 選考結果を理事会へ報告する。
井上宇市記念賞 推薦委員会 小野島 一	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当年度井上宇市記念賞およびアジア国際賞表彰業績の応募、推薦業績につき審査を行い、表彰業績を選出する。 2. 選考結果を理事会へ報告する。
コミッシング賞 推薦委員会 〇〇 〇〇	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当年度コミッシング賞の応募、推薦業績につき審査を行い、表彰業績を選出する。 2. 選考結果を理事会へ報告する。

9. 法人運営

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
企画委員会 倉渕 隆	7	<p>下記の事項を審議する予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学会全般の経営に関する事項 2. 理事会運営を適切に行うための議案整理に関する事項 3. 業務執行理事が所掌する事業に関する事項 4. 内部統制に関する事項 5. 公益社団法人の運営に関する事項 6. 事業計画及び収支予算に関する事項 7. 事業報告及び決算報告に関する事項 8. 組織運営の重要事項に関する事項 9. 特別委員会設置ならび成果報告に関する事項 10. 各種規程制定・改定に関する事項 11. 支部運営に関する事項 12. 国際交流に関する事項 13. 東京都労働委員会ならびに労働組合に関する事項 14. その他の事項
役員候補者選考委員会 倉渕 隆	2	<p>下記の事項を審議する予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 選考基準の確認 2. 役員候補者の選考 3. 役員候補者を理事会に推薦
代議員選挙委員会 奥宮 正哉	0	本年度は選挙を実施しないため開催なし
代議員候補者推薦委員会 阿部 靖則	0	本年度は選挙を実施しないため開催なし
省エネ基準評価技術 提案委員会 特別委員会 倉渕 隆	0	<p>エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅）における未評価技術の評価方法について提示しており、当面の目的を終えているため活動休止する。</p> <p>なお、経済産業省との協議が必要なため本委員会は設置は継続する。</p>
新型コロナウイルス 対策特別委員会 柳 宇	4	<p>2020年度5月15日に新型コロナウイルス感染症の流行実態を勘案し、本特別委員会を設置し、精力的に活動を行ってきた。2022年研究大会のWS①（本特別委員会）に延べ343名、WS②（傘下医療施設WG）に延べ171名の方が参加した。引き続きCOVID-19に関する関心の高さがうかがえた。</p> <p>本申請書を作成している現時点、国内はオミクロン株による第8波の流行が拡大している。現時点で収束が見通せない状況においては、本学会から引き続き最新情報を収集し、適時に発信する必要がある。このようなことを踏まえ、2023年度に以下に示す活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 引き続き文献を調査し、本特別委員会で議論を行う。 2. エビデンスに基づいた情報を適時に発信する。 3. 傘下WGの活動の応援 4. 必要に応じて、シンポジウムまたは2023年本学会研究大会の期間中にワークショップを開催する。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
新型コロナウイルス 対策特別委員会 医療施設環境WG 林 基哉	4	<p>新型コロナウイルス対策特別委員会医療施設環境WG(主査：林基哉)が令和4年度に設置され、新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生した医療施設における空調・換気設備や病室・病棟内気流性状に関する情報収集・整理を行ってきた。また、窓開け換気・簡易換気改修、空気清浄機の効果など、医療施設の状況に応じたクラスター感染対策の方向性について議論を重ねてきた。この内容の一部は令和4年度空気調和衛生工学会大会(神戸)ワークショップにて報告し、活発なディスカッションを行っている。本WGの活動により、空調・換気設備の老朽化や増築に伴う設備仕様の変更等の影響、病室ドア開放や窓開けなどによる風量バランス変化の影響など、クラスター感染防止に関する課題が浮かび上がってきた。これをさらに掘り下げ、その対応策を検討するため、本WGを継続設置する。そして令和4年度と同一の委員会メンバー構成で以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の医療施設における新型コロナウイルスのクラスター感染に関するさらなる情報収集及び整理 2. 国内医療施設におけるクラスター感染対策としての窓開け・空調換気設備の運用状況等に関する実態調査及び整理 3. エアロゾル感染を防止するための空調・換気設備の基本要件に関する課題の整理 4. 上記の活動内容に関する情報発信及び本学会大会ワークショップ等の企画立案及び実施 <p>以上</p>
次世代空調戦略 検討委員会 富樫 英介	3	<p>本委員会は次世代の空調システム像を描くことを目的としている。</p> <p>この目的のために、最新の建築設備だけではなく、空調技術が未発達であった時代の先駆的な温熱環境制御の取り組みを視察し、今後の新たな空調システムを展望する。特に歴史的な環境建築が何を持っていて、何故現在まで生き抜くことができたのかについて議論し、現在と将来の空調システムにどのように反映することができるのかを検討する。</p> <p>令和4年度は、対面と遠隔のハイブリッド開催で、建築設備エンジニアリング各社を取り巻く現在の社会状況について整理し、業界のビジネスモデルについても議論した。また、新型コロナの感染拡大状況をにらみつつ、大規模地下水活用形建築の視察を予定している。</p> <p>本年度も昨年度に引き続き、最新の設備システムと歴史的な環境建築を1～2箇所、視察する。歴史的な建築の中には電気など、外部からのエネルギー投入がなくても十分に安定した温熱環境を実現できているものが多く、建築の形、色、材料によってどのような方法でそれが実現できたのかを理解する。</p> <p>このようなパッシブな工夫に現代的な空調設備を重ねる際には、従来のようにエネルギーを大量に投入できることを前提に正確な制御を追求する方式では相乗効果を得られない。歴史的な建築のように、環境のポテンシャルを引き出すことができる建築に対しては、どのような空調設備システムが必要となるのかを議論する。</p> <p>同時に、このような新たな空調設備システムないしはサービスに対して、業界としてどのようなビジネスモデルを描くべきかについても引き続き、議論を重ねていく。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
CO2削減コーディネーター創設委員会 奥宮 正哉	7	<p>CO2削減（エネルギー消費量削減）コーディネーター実施に向けた調査委員会（2021年5月17日設置）し調査結果に基づき、CO2削減コーディネーター創設に向けて活動する。</p> <p>【活動予定】</p> <p>2023年度 ①資格の位置づけ、業界との連携を検討予定 ②ワーキンググループに分かれて、受験資格、募集要項、審査体制、審査要領、その他を検討予定</p> <p>2024年度 募集開始に向けての準備</p> <p>2025年度 第1期のCO2削減コーディネーターの認定を目指す</p>
SHASE-REHVAでのnZEB 評価特別委員会 奥宮 正哉	6	<p>以下の活動計画について、昨年度に引き続き活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 建築物における温熱環境・空気環境とエネルギー性能の両立を目指すnZEBの評価 <ol style="list-style-type: none"> 欧州・国内における空調システム（主に二次側空調システム）のレビュー 温熱環境・空気環境とエネルギー性能の両立を目指す空調方式のケーススタディ 最適な断熱・遮蔽強化による便益の調査及び検討 nZEBにおける再生可能エネルギー導入と評価方法 <ol style="list-style-type: none"> バイオマス発電の評価方法に関する動向調査（継続） ヒートポンプに関する評価方法の動向調査 再生可能エネルギーの自己消費率に関するEUの情報収集とケーススタディ 欧州のnZEB関連動向調査と日本のnZEB最新情報発信 <ol style="list-style-type: none"> 大規模建築物におけるnZEBのデザインメソッド nZEB政策やインセンティブ nZEB関連ロードマップ、カーボンニュートラルとZEBなど ガイドライン、提言への研究成果の反映
技術フェロー 選考委員会 〇〇 〇〇	2	<p>下記の事項を検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 年次報告書、計画書、委員候補者、予算に関する事項 応募案内及び委員会スケジュールに関する事項 認定する定数を決定し理事会へ提案する事項 選考基準に関する事項 候補者選考に関する事項
情報委員会 未定	3	<p>下記につき審議、検討、管理を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ホームページの運用管理全般 ホームページの利用状況の分析とフィードバック バナー広告の管理（広告代理店(株)中外との連携） 会員拡大のための各種情報提供ツールの検討 その他情報管理、会員拡大に関する事項の検討 会員利便性向上のための各種サービスの検討

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
建物用途別給水原単位 検討委員会 大塚 雅之	6	<p>空気調和・衛生工学便覧（第14版）に記載されている設計用給水量の建物用途別原単位は、1980年頃の水使用量を根拠とした旧来の値がそのまま示されており、実態と大きく乖離していることから、近年の水使用量を反映した給水原単位（単位給水量）の提案が求められている。このような背景から、本学会では給排水衛生設備委員会では、設計給水データ小委員会、給水給湯設備の設計データ検討小委員会において、最新の使用給水量等を収集・分析し、新たな設計用単位給水量が提案されてきた。そこで、当該小委員会における成果を検証し、実務者に対してスピーディーに学会学術データを公表し、実務設計に反映・波及させることを目的に学会提言として纏める。</p> <p>令和5年度の活動方針は、令和4年度において主要建物用途として、事務所ビル、病院、学校の精度検証内容の確認したこと、その次の段階として、以下に示す内容を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提案する給水原単位（単位給水量）、及びその給水原単位が包括する用途・範囲を決定する。 2. 上記①の検討内容について、必要に応じて会員に対しヒアリングまたはアンケート調査を実施し、学会大会でのワークショップの開催により協議する。 3. 上記②における意見も反映させて学会提言として纏め、公開する。
カーボンニュートラル 社会実現に向けての 学会方針検討委員会 秋元 孝之	4	<p>政府は2020年10月に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した。その後、2030年に温室効果ガスを2013年から46%削減することを目指すとともに50%削減の高みに向けて、挑戦を続けていくことが表明されている。これらを実現するためには、民生部門における迅速かつ確実な方法による建築・住宅の省エネ化・低炭素化の推進が重要となる。</p> <p>本学会では、2017年12月1日に「21世紀ビジョン・プラス 新技術との連携による建築設備分野の領域拡大と高度合理化ー超低炭素社会の実現を目指してー」を発表して、継続的に活動を実行しているところであるが、その後の社会情勢の急激な変化や技術開発の進展を鑑みて、空気調和・衛生工学分野としてカーボンニュートラル社会の実現に向けた更なる貢献が求められている。</p> <p>令和4年度は、カーボンニュートラルに向けた各分野の課題のロードマップをまとめた。令和5年度は、本学会が検討すべき課題について議論を深め、学会方針を取りまとめる。</p> <p>令和5年度大会にてワークショップを開催する予定である。</p>
組織運営委員会 山本 雅洋	3	<p>令和4年度に引き続き、以下の検討を行っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学会の継続的な運営体制の協議 2. 学会の組織のあり方の協議 3. 理事の役割の検討